

キャラクター名
冬樹 ハル (ふゆき はる)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	レネガイドビーイングA	カヴァー	フリーター
	キュマイラ					
オプション			年齢	20代に見える	性別	男
覚醒	償い	衝動	破壊	初期侵食率	39	%
出自	転生体	経験	煩悶	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	37
肉体	6	1	1			8	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	0	1			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 噂好きの友人	
その他: 自動巡回ソフト	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
都築京香	P 有為	N 無関心		
記憶の中の誰か	P 遺志	N 不快感		
"マルノ"	P 信頼	N 嫉妬		
アグニール	P 誠意	N 不信任		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	R B	
効果:	衝動判定 D+L V ・ 侵食率の影響なし							
オリジン: ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	R B	
効果:	シーン間 E 判定達成値+L V							
フルパワーアタック	2	4	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果:	攻+[LV*5]							
一角鬼	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン間素手: <白兵> 命0攻+[LV+5]ガ2射5m							
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン間【肉体】判定 D+[LV+2]個・アイテム不可							
剛身獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	ピュア	
効果:	シーン間攻+[LV*2]装+[LV*3]							
獣の力	2	2	メジャー	武器	単体	対決	-	
効果:	白兵攻+[LV*2]							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

年齢不詳のフリーター。男性。普段はふらふらしたり、バイトしたり、同居人の手伝いをしている。同居人は["マルノ"]と名乗る女探偵でオーヴァード。本名さえ不明で謎が多いが、ハルを捨てただけの人であるし、ハル自身そこまで気にしていない。マルノもハルのことを詮索することはない。まあ詮索はしなくても事情はハルより知ってそうである。

実はここ数年くらいの記憶しかない。…はずなのだが、"自分ではない誰か"の記憶がある。それはおそらく男性のものであるがはっきりしていない。ただ、強い意志を時折感じる。

彼の覚えてる最初の記憶は"償え"という意志とそれに伴うオーヴァードへの覚醒。どこかの研究施設と思われる場所で目覚めたが、周りは瓦礫と赤黒い跡ばかりであった。何が起きたのか分からずボーッとしていると雪が降り始めた。そして、そこにマルノが現れたのだった。「…君はまるで捨て犬みたいだな。それとも迷子の犬か。」と言われたことは今でもはっきり覚えている。

それから、ハルはマルノに引き取られ、名前と居場所を与えられた。"冬樹 ハル"という名前は春が近付いている冬に出会ったから、とマルノは言っている。狭い家に二人暮らししているが、二人の間に恋愛感情なるものは目覚めそうにない。ハルは仕事中はマルノを上司として扱い、オフでは面倒な姉のように思っている。マルノの腕がいいことも、たまに怪しげな仕事をしていることも知っている。

「ハル、コーヒーを淹れてくれないか？」
「いいんですけど、この資料まとめてからで。あと少しで終わるんで。」
「今すぐ、だ。」
「あ、はい。」

余談。マルノはコーヒー好きでコーヒーがないと仕事が始められない。また、この家の家事全般はハルが任されている。ハルが来る前はもうどうしていたんだ、この